



NEWS RELEASE

2006年10月12日
株式会社 日立ディスプレイズ

低消費電力技術を搭載したモバイル IPS 液晶を開発 いつでもどこでも高画質のデータを提供することが可能

株式会社 日立ディスプレイズ(取締役社長:森和廣)は、このたび、携帯電話向けなどのモバイル用途として、新しい画像処理技術(RCCS)^(注)を用いることで、大幅に消費電力を低減した IPS 液晶を開発しました。今回のモバイル IPS 液晶では、従来からの IPS-Pro 技術と RCCS により、低消費電力化を実現したことで、いつでもどこでも高画質のデータを提供することが可能となります。

現在、地上波デジタル放送などの映像コンテンツでは、中間調映像が主体となっているため、白色画面と比較し、平均輝度が低くなっています。そのため、通常、バックライトの輝度は一定であり、暗い映像画面では不要な電力を消費していることとなります。

このような状況を踏まえ、今回開発したモバイル IPS 液晶では、RCCS を搭載することで、画像シーンが暗い場合、液晶への入力信号レベルを高めることにより、バックライト輝度を暗くすることが可能となり、低消費電力化を実現します。消費電力は、画像によるものの、約 20%~50%の低減を図ることが可能です。また、バックライトの輝度を低くした場合でも、画像のヒストグラムを分析することにより、最適なガンマ特性設定を行い、高画質な画像を表示します。

なお、本開発品は、2007年4月からサンプル出荷を開始する予定です。
また、10月18日から21日まで、パシフィコ横浜で開催予定の FPD インターナショナル 2006 にて、2.8型高精細(VGA)IPS 液晶として展示します。

(注)RCCS(RGB Color Control System)

(株)ルネサス テクノロジが開発したバックライト制御技術をベースに、IPS 液晶に最適化した技術。

本開発品のおもな仕様

表示サイズ	7.2cm(2.8型)
表示画素数	480(水平)×640(垂直)
表示色数	26万色
表示モード	全透過型 IPS
視野角	上下左右 170°以上

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
